

にごらないひと

カンドユウコ

空元氣、空いばり、空手形  
空はからっぽで脆いと思っていた  
どれもこれも中身がすかすかで

「私、なあんにも考えてないよ」  
と、いずみさんはいった  
別段悪びれたふうもなく

私なら  
なんで私だけ、こんなことを  
と不満たらたらになるところを

なんと自然に  
軽やかに  
淡々と  
できてしまうのか  
不思議で訊いたら  
別段悪びれたふうもなく、こう返ってきた

私、なあんにも考えてないよ  
これが私の役目なのかなって

その目は  
いつもかたわらのものに向き  
その口は  
決して大きなことを語らない  
自身を空にして  
訪れたものをそのまま掌ですくい上げる  
深さ、静けさ、透明感  
十九のときからずっと、にごらないひと